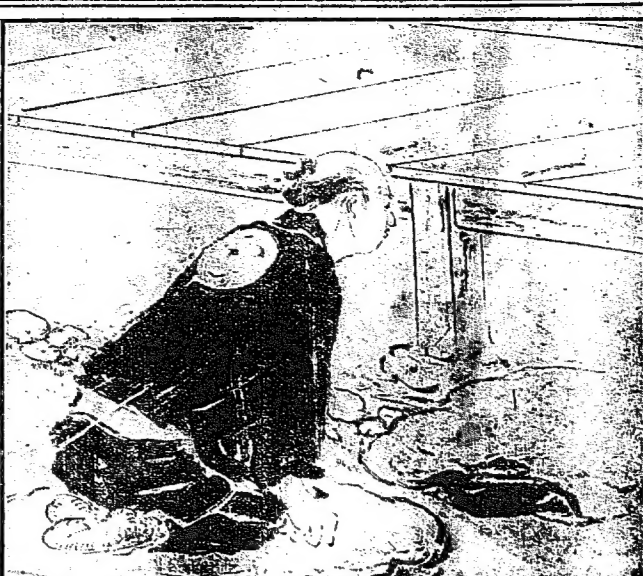


越後大評定

第百四十二回 早川貞水口演

此の越後大評定は、早川貞水氏の演説による。越後の歴史、地理、文化、産業などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。



越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。

お聞きなさい。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。

越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。

越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。越後の名産、越後の名士、越後の名跡などについて、詳しく解説する。

東京一番の美人化粧料

木カール液

本品は又復々、東京一番の美人化粧料として、全国的に有名。光榮を辱ふせり。

香

油醬

（印クハキ）

町田野國總下
造釀門衛右郎七木茂
店約特
目丁一町治明
店商野牧
番三五二話電

滋養強壯料

肝油ドロップス

スプロッド油肝
Cod Liver Oil Drops

（原産地：イギリス）

古人の垂範は現代の鑑戒

帝範巨軌國字解

蘇峰學人解題 市川鶴鳴原著

大阪商船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆
大阪商船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆
大阪商船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆
大阪商船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆
大阪商船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆	日本郵船出帆

[illegible]

本最大の光力を發するの

此の三種の火光を標々の方式に施す分
 火光の種類は、先づ白・紅・青の三種明
 にも、油を用ひて五十萬燭光が照らす
 室戸岬の燈塔は、其の建竪に三十
 日本第一位に位するものに徴しても
 誠に明

時には二色を併せしめて燃焼せるにも
火炎を見せしめることもある、今其の燈

を特別すると次の様である

不物燈 とは、一定の光度を維持するも

ふである

白光燈とは、單純なる閃光を發して略
 然然が比較的よく照くものなるが、こゝ
 閃燈とは、一個以上の閃光を發し、
 中で白色の閃光を紅又は藍色に
 交互するものもあるのである

不燃燐光燈とは、不燃燐光管に一個の
 紅、緑色の燐光を互發するものを云
 ふる

さて、不燃燐光管に一個の
 不燃燐光管を附設するものを云ふので

を云ふのである
暗燈とは、不眠暗光にして時に俄然
を生ずるものを云ふのである
さほ、漸次光を増す

暗黒に於ては、暗黒を以て互に因縁して少しも暗黒を有するものなを云ふのである。
 然るに、光明に於ては、光明を以て互に因縁して少しも光明を有するものなを云ふのである。
 然るに、光明に於ては、光明を以て互に因縁して少しも光明を有するものなを云ふのである。

[illegible]

は、一見して燈罩の光か。他の光かを例に
に類いからである。光閉光を發する燈式
に顯著ならしむる方法としては最も大なるもので、これは千八百七十四年に「
シス」燈罩燈設計の學術顧問官故「
シス」燈罩燈設計の學術顧問官故「
シス」燈罩燈設計の學術顧問官故「

緑紅などの燈光がな

に増加して来たのである。最新式に「ライトニング」「ライト」(電閃光)といふところがある。此は折射鏡の最新型が水銀を燈に用ゐる。上に支へられてゐるから、燃焼の際に煙が最少限に行はれ、煙量も軽減せられ、従前の煙量よりはるかに減少した。燃料する

それから變する閃光は、一秒時間の十分の一の間に、其の強さは常光の二倍である。



廣 告
六ヶ月 以上年利 五 分
日 步 五 厘
日 步 壹 錢
致候
鮮 銀 行

防新藥

巴儿

宜壽堂

丸上藥部

七五一·八活曜·路

號
 東京
 本町
 博文館
 定價
 金十二錢
 郵
 二錢
 稅

恩春の危険富士
不遇の行色別久保扶小松
支那婦人の産録記事内川
夫婦活安策北菰若江

画報
 八格の魅力……村上博士
 女性間の眞の理解……日向きむ
 東京市長の家廷（寫眞入り）
 宇山様子
 五廿金
 錢
 銀

果樹、山林、觀賞苗
 各種肥料、驅除劑
 菜內無代進呈
 法心消心
 老人、の居な、我家庭、
 美談別莊の強強、
 臣義士の母、
 雪隠糞
 主人

菜界 ▼
 勞力糧食に耐へ酷寒三伏の
 飢するも疲勞病歷に侵さる

七番 **朝鮮興農園**

果樹、田舎の苗木に耳を傾ける
 所々で各種苗の如何に栽培する

石を割るが如き堅固無比
 の山路石道にてもクツを
 良なるは諸點の完備せし
 産界の一大福音とて賞讃
 日本内地に於ける鐵道運賃
 に於ける廉値は汽船により
 世界の諸彥益々御引

古太郎商店

咸鏡丸坐洲の刹那 昌平丸船長の談

何處が港やら判明せぬ止
曳鉤した船艀は直に單獨にて注文
に航行し漑水夫をせし破損箇所を
譯べせしめし。同船體には何等異
なく船底のベンキが少し鉋がれ
る位であつた同船の
乗客は七十名位にして
客は還歸日郵便物と同時に注文
に揚陸した貨物の大部分は全權丸
客に積載された。其の

女髪結

船は初めたるのであるが同所が蜜津邊とは神ならぬ身の知る山もなくに破滅 乗り上げた墩にて

船の進行が止つたので初

て同所が注文津に非らずして他の

點に坐洲した事が判つたが其の後

が益々強烈となつたから其の何

の地點であるかと判らず何れも非

心點して甲板位置にして吾る東的

大いに久米の事業を遂行することゝ

朝鮮南洋に於ける國境の優秀者藤井重忠

は商業に於ける藤井重忠は商業に於ける藤井重忠

の先より女學生に身を落して結婚の故

歩を譲つてゐる大東亜建設部山本小次郎

とは十年前からの知合にて同間の旅費なら

て久米君に託するが同様に久米君に託す

あるを以て久米君は條件にて提供し

大いに久米の事業を遂行することゝ

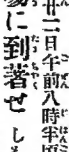
藤津廣井氏義學

たつと

坐ざ洲しゅうして居ゐるの

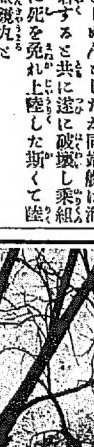
津の濱近くに坐して居るのを發
して三鷹北方の生文津に至り同所
各地へ洩れるを電報した昌平丸は
社より救助の電命に接し廿一日朝
山出帆廿二日午飯入時半頃
現場に到着せし波浪高
して近寄れざるより一筆運轉士及

うらゝか



としたが同端位

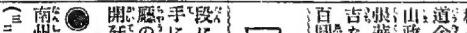
へに到着するに共に遂に破壊し乗組
 員は僅に死を免れ上陸した斯くて陸
 上より威鏡丸を
 を爲さしめどしたと同端艇は海
 へに到るに
 上より威鏡丸を
 上より威鏡丸を
 上より威鏡丸を



上より威鏡丸を
 上より威鏡丸を
 上より威鏡丸を

同を曳
卸し太

廿三日午三時半、半瀬川に開き、
十五六間を曳、仰し大に力に課
得廿三日午三時、五時頃、金鐘九時五時、誤
頃第七平安丸來、落平安丸をして注
津(航船)を曳きに至らしめ、昌平全
下つたもので、世間の人々々々
女學館から、女學校に成
私が此の女學校には、思ひ俱
都を起して、か最年や入年はかり
なり、元來女學校と云ふもの



染料植物は昔からいろいろ

でこそ染物に用ふる染草が歐洲
爲獨逸からの輸入杜絶して非
常價となり當事者は大に困つて
が輸入されない以前は我邦では
何を使つて居たらうか試みに之
を調べて見ると染草の事を書いてあ
る古い本では延喜式で其總匯の
其の

時代に用ゐた染草

のである黒を染る 橡は即ち櫟の事
で又ぐんぐりの木ともいふ此木の皮を
を煎じると汁が出る其に鐵を入れる
と黒くなる昔はつるばみ色と稱して
製儀に用ゐた

黒き色は此殼で染

た者である藪芳は支那から來たので
日本にはない併し種を蒔けば直に生
える之は印度にもあるから臺灣の如
き地に植れば繁殖するは疑ない以上

果實は貴重

赤は紅と藤草とで染黄は黄葉黃植
 死子、菊安などて染たる黒は櫟や
 葉を用ひ、葉は紫草の根で染た
 白二十點に達し書狀、消息、
 紙底多敷を占めたるが其中にも
 注目に著きたるは明服藤輪の雲
 今に見る影もなく
 此の他日、の寫根木皮で染繪
 傳置し乗組員大園德庵に即死せしめ
 たる事件は興典地方法院に於て密
 入罪の判決となりたるを京成廣瀬
 院に控訴し審理中の處で明不足に
 明不足に

たる末吉家告

當時に應じたる末吉家次郎氏に酬るるため關白が天下旅行隨意の朱印狀を與へしに云ふ消息實なり、其他上野理一氏等の消沈は、勝馬等の流亡消滅の事に振ひ届るは志紀長吉神公の豫言が定れに記文を送りたる

同法院に於て信託の判決を受け向ふに懸附したるに基は亦該説不允分の爲無罪の判決ありた

水汲み老人 澤場 京城、新
 路五丁口の水汲み夫金造(きんぞう)は一
 十五日午前九時石油罐にて水を汲

きなり（大隅）

四百圓の横領 徳島縣名西
 志村大字下六條生れ當時金羅北
 成二は郡金萬圓なり居住者南中
 一は郡金萬圓なり居住者南中
 著者横領したる外同様の手
 金千圓を借り受け内四
 中納造に餉品代五十九圓二十二錢を

の上全州法院支
方法院にて懲役一年三年間執行猶豫

輕鐵轉覆事件 威威威典郡
郡北面外鎭里尹海澤二
於同面中鎭里的安瑞橋が本年一月二十六日午を賣却して歸宅中なる

通過し其儘

近にあつたるレール三本を右の軌
道と鐵路に樹へて通過し其儘に放
したる爲め同日西洲計より咸興に
達せり
建築費が午後三時二十分なり
のうちに港よりレールに運送し
て船中に積みこみたるなり

●猩紅熱熱 京成古市町四十三番
地船主ちん干(一)は二十六日發熱
し嘔吐を起し翌日死す

や其染方を記

た。紫の染料の方法も研究すべきである古書に調へると染方の秘傳といふものがあつて居るけれども、現在慣習は之をなす今日の青藍は大抵紫と紅を混合したものである。昔青藍を延喜式に染めたものが正倉院などにあるに染めたものゝ色が認て居ない今日の染では逆も怎うは出来ぬ

始めに學校を飛び出して丁つた。

當時わたくしが佛蘭西語學修に勉めた事は實に非常なもので識方記、口頭試験等何れも當てず語を用ゐる如何なる難かしい言葉と雖も解せたいふ言辭は許されなかつた。その爲め我輩は學校卒業後南部豐氏の塾に准奉任師用係となつた當時も

異、
い、
か、
ら
従
来

つて居たのだ阿片の如きも我邦で栽培されたものである

熱く判明し入院加療中

明治十九年選拔せられて同窓六名共に獨逸に留學したのであるが彼等も亦獨逸語のいゝはから始めて分學修に努めたものである

へるを此花の

◆少年時代から

青年期までは初め漢籍で苦み後佛學に轉じ更に獨逸に努めたので現代

式も近い

大規模な建築式も近づく
て来ゐた。その通りに
て學校を出で、新らしく
以後に入る少年少女諸
君、及び其父母も、様にな
見たり、姉たる方々のため
に諸君の、お母い時分の

ハデな
新間に斯んな語
被せてある▲ツ
此の町巴里に近
モンマートに云ふ處で熱心の信
を持つて居る若い男女が四五人で
車に乘つて例もの如くにお寺詣り

うわさ
うわさ



小智集

日王正親王 小宮正親王

初めに漢籍に
佛語終に獨逸語

我輩の甘蜜前後
は徹頭徹尾外國
語に苦しみ度い
のである。明治

十九年、まだ十七歳計りの頃政府

を馬車に乗せてやつた△馬車に乗
門前に止まると△慶さん一同の觀
を非常に使んで何にか此のお禮を
たいて品物やお金を上げるわけに
行かぬその代り何んでも六ヶ敷に
を知り度いと思つたら教へて上げ
うと云ふ△△を其若い人達がそ
なら慶さんよ、此の世界の大觀

さんと試みた

歐羅巴教育を施さんと試みたもの、何分たゞ當時弊風國の貧乏金、以て百名内外の學生を養育し天下の材に爲ようといふ計畫であつたから現今の入學試験にも等しき選考試験には大約八百名内外の受験者あつた、我輩も

付て二月か三月の間に必復考も受けた、一回は何にせよ早く卒業したい、一回は何にせよ早く卒業したい、爲なかつた△一同が信用しないのを見て取つたお嬢さんはそれなら私達の事、私達が眞實である事を御目に掛けやう私共が今持つて来た馬車の御

就中東石總裁

聞して卒業したのであるが現時社
内に勤めて居る同窓は僅に二十名
も留まらなかつた▲お寺の参詣を済して
就中東柳總裁の吉馬車に乗つて歸らうとするや驟疾は急
病氣が起つて近所の某屋に嘔吐せざ
りて死して居つたさうだ

社会部部長、山松室、教民や新
民氏などには猶ほ知名の人には帝
の同窓士ばかりでなく

[illegible]

普通（前名一回抽三錢五錢等引）
 看煙爐至急欲集、希望の者は願
 携帶午前中試あれ
 京都櫻井町 池上醫院 524
 藥店 遠隔御目援の場所に有
 旭茶店 鎌倉有御堂の向は左記に
 旭町一 天野 電話二〇五二番
 作入用紙三反半家屋拾貳坪付
 城外所在 517
 本町三丁目 森川食糧品店
 市內用年附廿歲前後には商業輕
 員入に離障なく保護人を要京16號

送金

[illegible]

御報即時參上
地方即時送金

香川 西村商店
 龍山京成北本倉町
 電話二九〇二番
 方面行取扱元
 貨物運送部523
 出所523番

番外 (別名一蘭會金五錢増)
 昭和十一年開設

古本買受 318
 定額即時貸上
 二五セツツホヤ書店

小教材に於ける物理 折新
 國語教授法及國際關係研究會
 新撰漢文自然學文典輯 潮吉
 受験必携數日修文典輯 潮吉
 歴史地獄試問同解答中級初中 六五
 強脚健胃法 山口、南吉
 スキ 山口、金井
 はりてん舌石川、齋藤、齋藤
 花の火若木、吉田、齋藤、齋藤
 八〇、六五五

二十二年

同價買入古寫眞機
城南大門通三丁目電話九四九番512
上田寫眞機支店

心州
到著運貨物取扱開始仕候
城郡町酒井運送店504

振時参入丸
電話貳萬七千五
阿部善雄

備服資庫更金
附利便の爲め奥店申出に依り本

山口

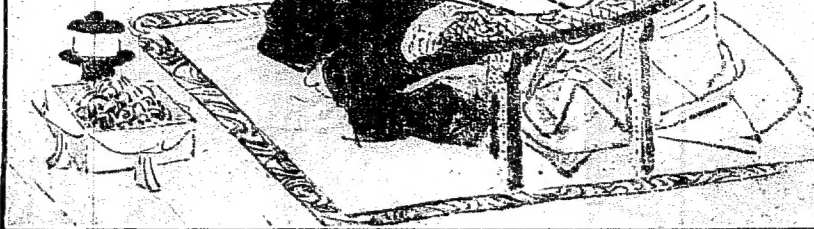
[illegible]

内入る 見

方は御注文次第送附す
 京城本町三丁目
 佐藤玩具店
 二月十五日
 大安賣
 東屋

(11)

登一國を遊見して、越中境に至つた時、また前田親家に語つた。
『和歌此の國を治めるに於ては、し尾の城は、彼の分では用を爲すまかせ少し規模を擡げ、要害も堅固にせられたい』
親家が其の命に従ふを待つて、再び命を下して、
『末祿の地は、越中を抑へる究竟



與に乘する體の見え申す。何事にて
も勢ひの過るは、身の危きおどろり
唯此まゝ、三五年も打過る時は、國
一致せず、禍内より出るでござら
此時一様に搔擧さんこ、最も易き
程の事やぞわ」

「卿を行き理を説いて、進出の利
き事を明らめたるで、利家も其理
の注意服して、遂に其まゝ軍を變
前に回す事とした」

此時佐々木内藏助成政は、北之庄
城さぐり、荒南として觀察中で、
「狼狽、必定勝に乘じて、越中に宛
入するであらう。縱令天運に轉ひて
今日まで我儘を働くとも、我が前
に踏込むに於ては、合戦にも及ば
ない、棒打ちに於ては、合戦に上
へ切り上り、彼奴等が素着、懸け
べてくれうちものぞ」と矢の根を磨
いて待て受けたのであつた。

□大塊翁歡迎句會

野田大塊者の茶湯を饗し、一箱の時、時聞たりと乞ひて、歐羅巴會を饗さんと謂ひ、なるに快く、
 乃て丁に三度茶會中に會を催し、席上有益なる語話を、隨筆隨面揮毫を乞ひ、各自即吟「花」の句を吟じて送りに、又同會制より樂茶を得ためて迎へし名士に、特に又名會揮毫を得たることにて會員の満足此上なく、會食者十餘常なる饗會なり。」

『説北花』

地は閑寂くや此花かななり
華草土肥に愛する人過ぬ
此花の月より得たる香な
此花の葉に現つた心や春
此花の思ひ深き人の眼
八道に思ふ人止められけり
此花の下には影の時も疾
此花を折る人の香と別れし
此花の去来未だ高き日
新花の時々々々々々々々々
此花の香に堪へず民衆泣
此花の香に堪へず民衆泣
此花の香に堪へず民衆泣

○ソウル詩社詠草
一慕雨陰紫索朝笠青虛支蒲曳買同策可嘆
崇石蘊滴竹亭心仙峯湖心波渡石牛入石紅南

旭のなかに心ざけ行く
相別れ見かへる心おさへつゝ歸
夜道に赤きともしび
かへるきなきめくるゝたを
めのあらばいかで旅をなげか

一人やむ者の家内は夕やみは近
れり來り火たけをみなご
ども
何でもいい眞面目に働いてをれと
いふだけのとに生くべからしか
大人眞似を装うて澄し居るおかし
き科も覺え來にしか
職業のやめがたけは雇業の恐ろ
しがりぬいかなるべき

チャン／＼と火煮なゝきてよろこ
 びぬげに何事か今起り來よ
 生真面な心となりて筆されるわが
 傍に嘸ふ人なきか
 これやこの涙さびしも酒の座によ
 と興さめてうなだれるこゝろ
 モウお前も小説でなしと罵られて
 此られし櫻より妬しさの湧く
 辭か驚り欺うたひをれば何かなし

派はなこぼれて野たゞやなりぬ
 藤村 幻花
 旅たびの子は風に向ひて口笛くはふえを吹きつ
 つ町まちに往むかふてりき
 酒さけよ、酒さけよ、永久とこしほにわれをば酔よめはしめよ、醒さめめてわが世を見に堪たざりやうと
 酔よめひてかへり、深夜しんやの宿しゆくの戸かどを叩たたくかなしき我われと人に知らぬや

○新東洋六の二 標榜して全亞細亞主義を
本脚と云ふ。アラビヤの神像二十寸大の西馬
上に乗し云々(其詳)

○英語の日本(二) 中學三年生只
英語、英語の學科に、頗る有る記事也

○佛法益花投入研究會(一) 五
市町區議會(市町區)二十日大日本報登出

○市町區雜聞(二六七) 十錢東京市芝區
角力世界五の四五 十五錢東京市京橋區

○市町區內政會
生活の力三八 一錢東京市京橋區木

六下(生活)

▲處は南大門通り
南門湯の大口突然
叔父さんを見買つ
て下さいよコレ
ふと見るに十歳
位の子供は仁丹を
手にして僕に
のねを覗き込んで
ぬるの彼れは此
の瓶を覗き込んで
通行人を捕へて同
じ様を言葉をつ

退してゐたサ。彼れは抑も如何なる撥過の少年であらう（若い叔父さん）。▲ハモニ・カーや明留筆使用する度毎に消する簡単な法は無いでしようか。お尋ね内。▲蠟に蠟施が来るどういふ肉語が在地下流行して居るさうだ。此れは梅毒が頭に上つて来るさういふ變語であるさうだが仁にも此種の人達が大部分あるだらう。

十二月廿五日から引續き今日迄、**定例**、**幕府**の大賣出をやつて居る店がある。其諸店には、**炭末**、**木目大賣出**、**白く**、**何々**、**幾何**、**何錢**、**何金**、**何通**云々、**ストロブ**の煙突掃除をせぬ家が多いから、**北米**、**倉町**などを通ると、**煤煙**の面が降る。**白灰**の市中、**各店**が撒き散らされ、**風の日は**、**塵雲**、**霧**など、**最少**、**位置**

は宜い凍る程撒いてはならぬけれど(衛生家)

[illegible]

生徒募集

本年四月一日モシムヘキ本學第一學
年及同第三學年生徒共々十名募集ス
大正二年二月五日

京城公立高等女學校

一、本校第二學年二月二日於テシムヘキ
入學志願者心得要項
モノ本學四年一月二日於テシムヘキ
模試以上ニ達シテ當考小留來テ卒業
シ後以上ノ成績本學三年三月末ヲ至
ヌ右ノ入學志願者數募集人員ニ超過

スルベキハ	選拔試験ヲ行フ其學科
目及程度	ノ如シ
國語	算術、日本歴史及地理、理科
英語	
右	尋常小學校卒業ノ程度ニヨル
三	第三學年ニ入學セシムヘキモノ
左ノ學科	二選シテシムヘキモノニツキ
度ニヨリ	試問ハ本校第三學年ニ修了合格
シタルモノ	ヨリ選擇ス
修了ノ國語	算術、日本歴史
(日本) 英語	算術、地理
植物、動物	生理衛生、理科
入學志願者	ハノ書類ヲ來ルベシ
四月二日	マデニ來ルベシ

入學前シテ、應給書以上本校學則ニ
依リテ、大正五年一月以後ニ調
製セルモノニ限ル
學業證書第一書（小學校在學者ハ本學
學年度第一書ニ準シ、其他ハ最近ノ
或ハ修業證ニ及ニツキ、當該學
五、選拔試驗セル第三學年入學志願者
ハ三月九日（第二學年入學
志願者ハ三月十一日）ニ行
ハ八日發着ニシテ、左記物品
ハ八日發着ニシテ、前

ニ本校へ出頭シ係員ノ指揮ヲ俟ツ
ヘシ
半紙、筆、硯、鉛筆、小刀、辨堂
第一學年 選拔試驗日別左ノ如シ
三月十一日 國語、日本歷史及地
理、理科
三月十二日 算術、常識、身體検査
トハ同アル 忠アル者其他轉校生
モトアルヘシ
注意
村上唯吉著
心機一傳 定價十錢
郵費二錢

右内鮮文とも出版出來
せり陸續御購讀願上候
京城日報代埋部
京城市町
申込所
孤松書院

產 煙草代用 森永

朝鮮語會話

受験者の讀まれならぬ會話書

[illegible][illegible]

本日發賣速に一本を求めて其眞價を知り給ふべし
 來る四月の文官普通試験受験者座右の生きたる顧問として歡迎益々盛んにして忽ち初版再版を賣り盡し三版
 (一) 現代名詞 四四七五
 (二) 現代名詞 四四七五
 (三) 現代名詞 四四七五
 (四) 現代名詞 四四七五
 (五) 現代名詞 四四七五
 (六) 現代名詞 四四七五
 (七) 現代名詞 四四七五
 (八) 現代名詞 四四七五
 (九) 現代名詞 四四七五
 (一〇) 現代名詞 四四七五
 (一一) 現代名詞 四四七五
 (一二) 現代名詞 四四七五
 (一三) 現代名詞 四四七五
 (一四) 現代名詞 四四七五
 (一五) 現代名詞 四四七五
 (一六) 現代名詞 四四七五
 (一七) 現代名詞 四四七五
 (一八) 現代名詞 四四七五
 (一九) 現代名詞 四四七五
 (二〇) 現代名詞 四四七五
 (二一) 現代名詞 四四七五
 (二二) 現代名詞 四四七五
 (二三) 現代名詞 四四七五
 (二四) 現代名詞 四四七五
 (二五) 現代名詞 四四七五
 (二六) 現代名詞 四四七五
 (二七) 現代名詞 四四七五
 (二八) 現代名詞 四四七五
 (二九) 現代名詞 四四七五
 (三〇) 現代名詞 四四七五
 (三一) 現代名詞 四四七五
 (三二) 現代名詞 四四七五
 (三三) 現代名詞 四四七五
 (三四) 現代名詞 四四七五
 (三五) 現代名詞 四四七五
 (三六) 現代名詞 四四七五
 (三七) 現代名詞 四四七五
 (三八) 現代名詞 四四七五
 (三九) 現代名詞 四四七五
 (四〇) 現代名詞 四四七五
 (四一) 現代名詞 四四七五
 (四二) 現代名詞 四四七五
 (四三) 現代名詞 四四七五
 (四四) 現代名詞 四四七五
 (四五) 現代名詞 四四七五
 (四六) 現代名詞 四四七五
 (四七) 現代名詞 四四七五
 (四八) 現代名詞 四四七五
 (四九) 現代名詞 四四七五
 (五〇) 現代名詞 四四七五
 (五一) 現代名詞 四四七五
 (五二) 現代名詞 四四七五
 (五三) 現代名詞 四四七五
 (五四) 現代名詞 四四七五
 (五五) 現代名詞 四四七五
 (五六) 現代名詞 四四七五
 (五七) 現代名詞 四四七五
 (五八) 現代名詞 四四七五
 (五九) 現代名詞 四四七五
 (六〇) 現代名詞 四四七五
 (六一) 現代名詞 四四七五
 (六二) 現代名詞 四四七五
 (六三) 現代名詞 四四七五
 (六四) 現代名詞 四四七五
 (六五) 現代名詞 四四七五
 (六六) 現代名詞 四四七五
 (六七) 現代名詞 四四七五
 (六八) 現代名詞 四四七五
 (六九) 現代名詞 四四七五
 (七〇) 現代名詞 四四七五
 (七一) 現代名詞 四四七五
 (七二) 現代名詞 四四七五
 (七三) 現代名詞 四四七五
 (七四) 現代名詞 四四七五
 (七五) 現代名詞 四四七五
 (七六) 現代名詞 四四七五
 (七七) 現代名詞 四四七五
 (七八) 現代名詞 四四七五
 (七九) 現代名詞 四四七五
 (八〇) 現代名詞 四四七五
 (八一) 現代名詞 四四七五
 (八二) 現代名詞 四四七五
 (八三) 現代名詞 四四七五
 (八四) 現代名詞 四四七五
 (八五) 現代名詞 四四七五
 (八六) 現代名詞 四四七五
 (八七) 現代名詞 四四七五
 (八八) 現代名詞 四四七五
 (八九) 現代名詞 四四七五
 (九〇) 現代名詞 四四七五
 (九一) 現代名詞 四四七五
 (九二) 現代名詞 四四七五
 (九三) 現代名詞 四四七五
 (九四) 現代名詞 四四七五
 (九五) 現代名詞 四四七五
 (九六) 現代名詞 四四七五
 (九七) 現代名詞 四四七五
 (九八) 現代名詞 四四七五
 (九九) 現代名詞 四四七五
 (一〇〇) 現代名詞 四四七五

取次所 京城大平通一丁目 振替京娘三〇〇番 **京城日報社代理部**

近頃藥社の東京及全國偽ドラッグを明売し、有り觸れたる賣藥を調製し其筋の免許を得、藥を偽造を淺く、石し、強味と販賣品とは別物にて僅に十錢の原價を授け、二圓の定價を貪り、罪せられたる者も有り。

りん病毒専用藥 **ドラッグ商會** 鮮本館

京城南大門外停車場通り

行の外給はしき商號を用ふる者
 本館 合資會社 ドラツダ商會 有田製菓
 此記しあ
 凡て國物若くは模造品なりは製社は藥房上の責任を重んずる爲他店に取次販賣を許さず直接御注文を乞ふ
 ばい雅樂一週間付普通通圓貨物特製成圓も病熱常週間付普通通圓特製參圓●詳細本月二日の本紙御

安心して食べられる菓子
 小金五十銭

本館 大阪 合資會社 ドラツダ商會 有田製菓
 此記しあ

ミルクキャラメル

セモノに御注意の上此商標ある

森永ミルクキャラメルの御愛用を乞ふ

東京森永製菓株式會社

100

○尼崎汽船出帆
 〇山本浦釜山下 國船戸大發行
 秀代吉丸 二月 日接四時出帆
 仲代九丸 二月 日接四時出帆
 岐代九丸 二月 日接四時出帆
 君代丸 二月 日接四時出帆
 日清海運部
 日清船主丸
 二月十九日
 杉田回渡部

一草魚垂舟

本號所製之草魚垂舟，係用名貴藥材，精工製成。凡患此症者，服之立見奇效。每盒售價大洋一元二角。

總店：上海南京路
分店：廣州、香港、汕頭、廈門、福州、寧波、杭州、蘇州、無錫、揚州、鎮江、南通、蕪湖、安慶、九江、南昌、長沙、衡陽、桂林、柳州、貴陽、昆明、重慶、成都、西安、蘭州、西寧、拉薩、台北、高雄、基隆、新竹、嘉義、屏東、花蓮、台東、澎湖、金門、馬祖。

水 北藥丸 每月廿八回	元山 益	益 德丸 二月廿八日	釜山 益	義 陽丸 每	釜 頂山 益	長 生丸 每	釜 頂山 益	三 浦丸 二月十八日	釜 山 益	海 州丸 巨濟丸	朝 釜山 益	統 濟丸 廣 實丸	朝 釜山 益	顯 天丸 三日目	彈丸 木浦 益	慶 興丸 二月	木浦 益
-------------------	---------	------------------	---------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------------	-------------	----------------	--------------	--------------------	--------------	----------------	---------------	---------------	---------

公州九	公州九	公州九	全州九	江原九	麗水九	晉州九	南陽九	錦陽九
南陽九	南陽九	南陽九	南陽九	南陽九	南陽九	南陽九	南陽九	南陽九
三月二日	三月二日	三月二日	三月二日	三月二日	三月二日	三月二日	三月二日	三月二日
木浦發	木浦發	木浦發	仁川發	仁川發	仁川發	仁川發	仁川發	仁川發

平安丸	二月廿七日	若松發
大黒山丸	三月一日	若松發行
本海峽丸	三月二日	若松發行

汽船釜山出帆廣告		
○門司・神戶・大阪行	二月	日後五時出帆
○元丸	立神丸	三月十六日午後十時出帆
○四司・神戸・大阪行	小倉丸	三月十七日午後五時出帆
○元丸・城津・浦賀行	小倉丸	二月
		日後十時出帆

共同汽船出帆

○元山、西割、新川、城津、浦津行
第三條航路 三月 十六日午後六時出帆
○門司、宇部、神戶、大阪行
第三條航路 三月 十六日午後六時出帆
○佐須賀、嚴原、壹岐、博多行
天眞 九月初三日(丁未)午 午後十時
天眞 九月廿六日(己酉)午 午後十時
本館取立店前 大池國瀨部

共同汽船 大連行
二月廿七日午後二時出帆
二月廿九日前九時出帆

英同丸

[illegible]

京橋歌次郎 河村運送店